

J-Pharma

2026年3月期 決算説明会

ジェイファーマ株式会社

代表取締役社長 吉武 益広

取締役最高財務責任者 藤本 裕

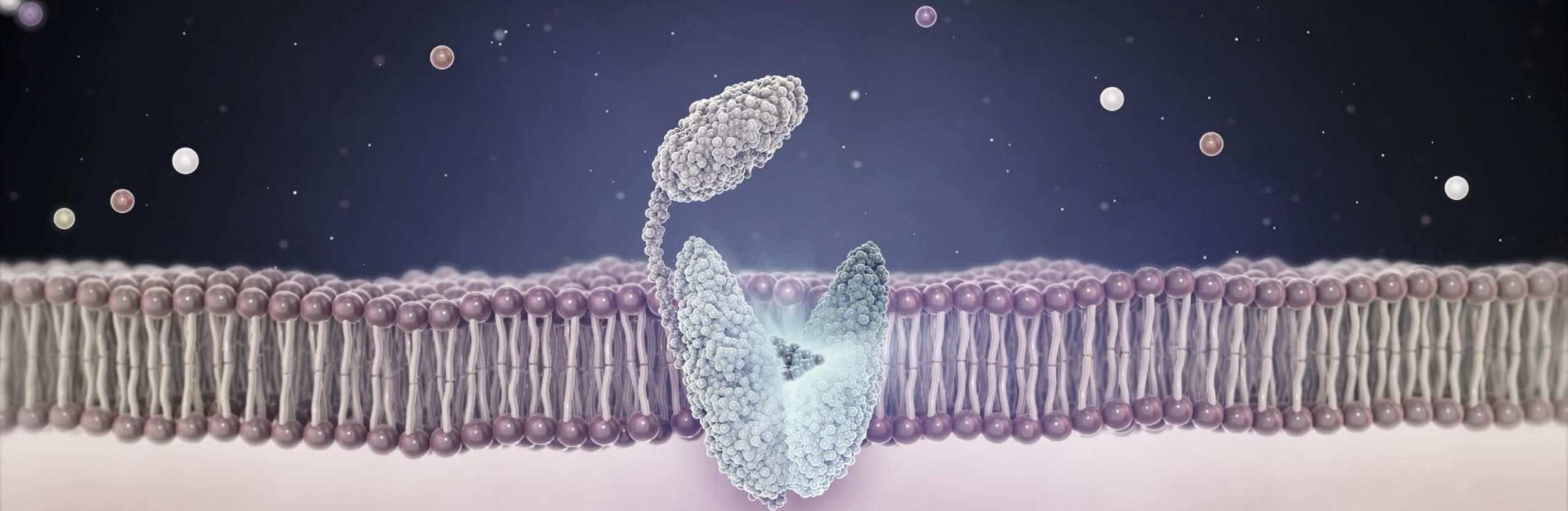
2026年5月19日



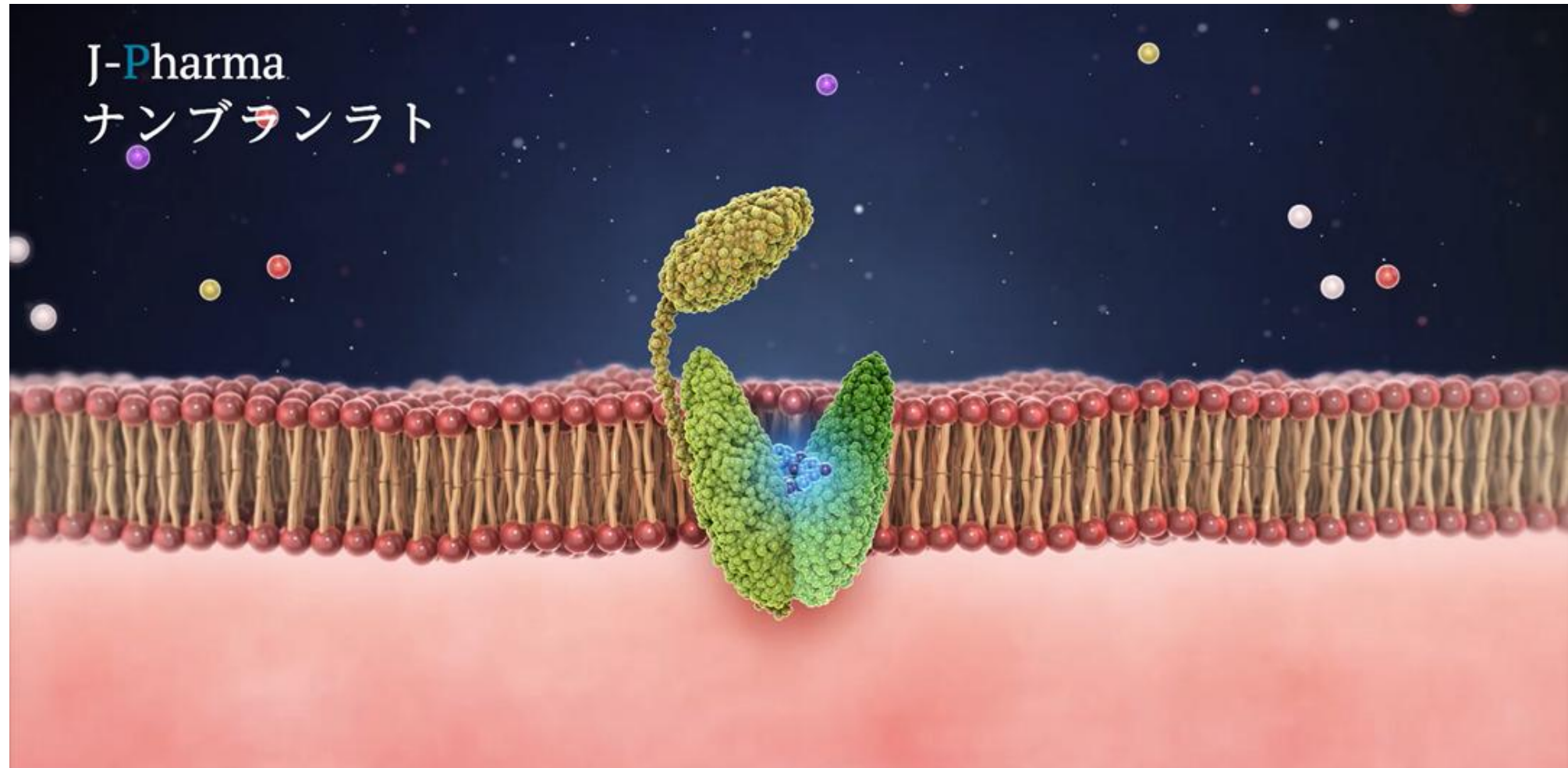
免責事項

- この資料に記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、当社の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断や想定によるものですが、既知および未知のリスクや不確実な要素が含まれています。様々な要因により、実際の結果は、これらの記述内容と大きく異なる可能性があります。その要因には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、関係法規制の改正、新製品の開発中止や上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。
- また、この資料には医薬品（開発中のものも含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。開発中の化合物に関する情報は、その化合物の確立された安全性や有効性を示唆するものではなく、開発中の化合物が承認を受けることや、開発中の用途で上市されることを保証するものではありません。
- 当社は、この資料に掲載された予測および将来の見通しに関する記述等について変更または訂正する義務を負うものではありません。

SLCトランスポーター創薬の新たな可能性を追求し、
グローバルベンチャーとして世界中の人々が抱える
アンメット・メディカル・ニーズに応える革新的新薬の開発を通じ、
人々が健康を維持し、希望を持ち続けることに貢献します。



当社が独自に開発した新規作用メカニズム： L型アミノ酸トランスポーター1（LAT1）と、LAT1阻害剤

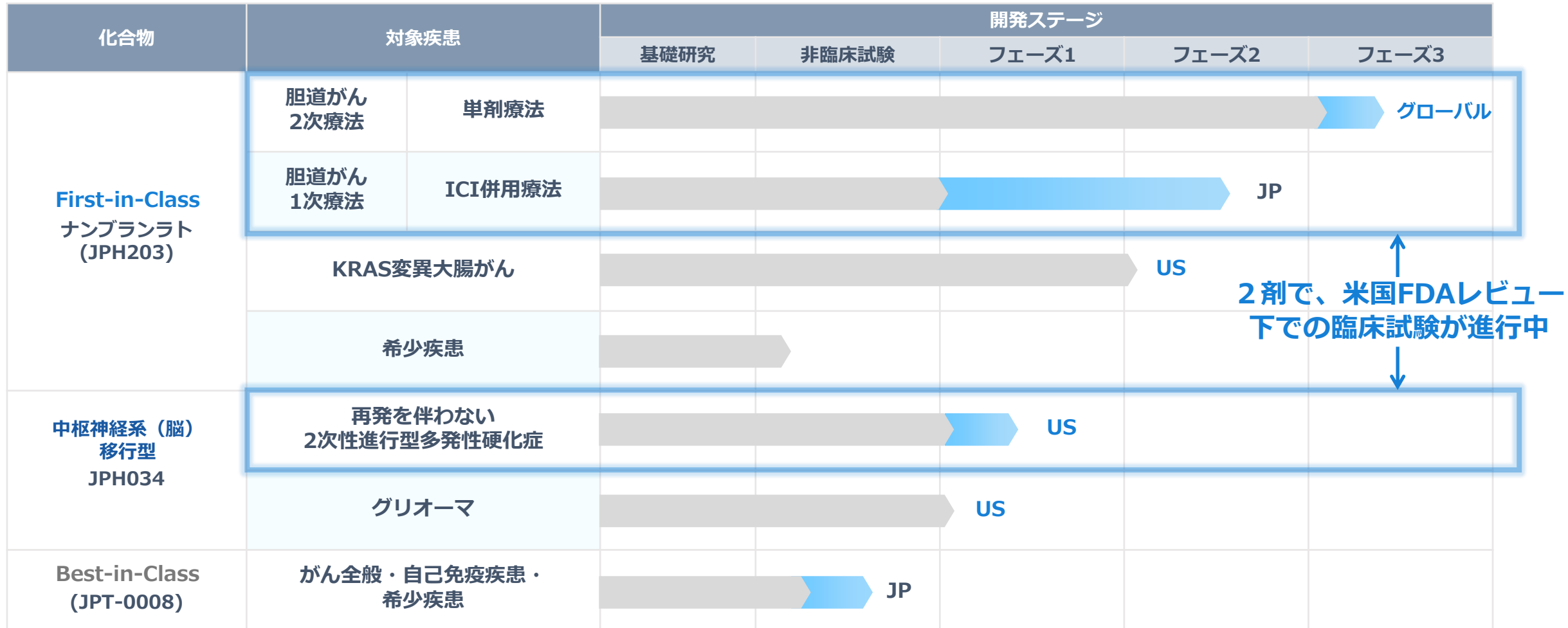


<https://www.j-pharma.com/assets/video/251209.mp4>

Agenda

- **事業の進捗及び見通し**
- 2026年3月期 決算発表の概略
- 2027年3月期 業績予想について
- 事業化について
- 質疑応答

LAT1阻害剤 開発パイプライン（2026年5月現在）：2剤がグローバル臨床ステージ



注：開発ステージにかかる記載は今後の開発予定を記載したイメージ図であり、実際は異なる可能性がある

胆道がん2次療法を対象とするグローバルフェーズ3 (Beacon-BTC) の進捗及び見通し

化合物	対象疾患		開発ステージ				
			基礎研究	非臨床試験	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
First-in-Class ナンブラント (JPH203)	1 胆道がん 2次療法	単剤療法	→ グローバル				
	胆道がん 1次療法	ICI併用療法	→ JP				
	KRAS変異大腸がん		→ US				
	希少疾患		→				
中枢神経系 (脳) 移行型 JPH034	再発を伴わない 2次性進行型多発性硬化症		→ US				
	グリオーマ		→ US				
Best-in-Class (JPT-0008)	がん全般・自己免疫疾患・ 希少疾患		→ JP				

注：開発ステージにかかる記載は今後の開発予定を記載したイメージ図であり、実際は異なる可能性がある

国内大学発シーズを起点に、グローバルに通用する臨床データを構築し、FDAとの対話を経てグローバルフェーズ3に到達

承認まで
至る確率¹

12%

22%

64%

国内フェーズ1

(2015~2017)

胆道がん、大腸がん
への一定の効果を
確認

国内フェーズ2

(2018~2022)

胆道がん2次療法を対象に
100名以上を組み入れた
大規模試験で効果を実証

プラセボと変わらない
安全性を確認

ASCO GI 2023, ASCO
Annual Meeting: 口頭発表
Clinical Cancer Research 掲載

米国FDA対話

(2023~2024)

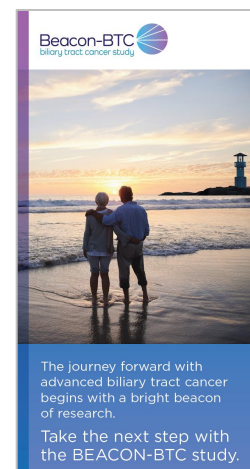
米国の患者層に合わせた
フェーズ2データ再解析で
延命効果を確認

とくに、投与期間が長い程、
延命に繋がることを確認

ESMO 2025: ポスター発表

グローバルフェーズ3
Beacon-BTC

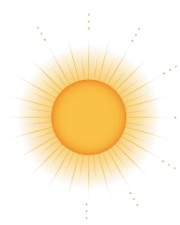
(2025~)



承認 (計画)

日本発のブロックバ
スター製品 (売上 > 10億米
ドル) を目指す

「副作用が少なく、太陽のように患者に寄り添う抗がん剤」
のコンセプトどおり、安全で長く治療できることで、延命に繋がる可能性



本資料の将来に関する見通しは現時点での想定であり、臨床試験結果や規制当局の判断、事業環境の変化等により実際の結果は異なる可能性があります。

出所: 1. 経済産業省/厚生労働省「創薬ベンチャーの育成」2021

ナンブランラト：グローバルフェーズ3 TOPICS

2025年12月の試験開始以降、米国治験施設立ち上げと患者コミュニティへの情報提供を本格化

TOPICS

2025/12

グローバルフェーズ3開始 ClinicalTrials.gov登録

<https://clinicaltrials.gov/study/NCT07265674>

2025/12

米国1施設目の立ち上げ完了

2026/4

CCF¹ Webinar実施

- ・ 治験参加予定施設の治験責任医師複数名を含む、74名が参加。評価4.3/5
- ・ 患者・家族・医療従事者の当社治験への理解促進を目的に開催

2026/5

CCF Annual Conference参加

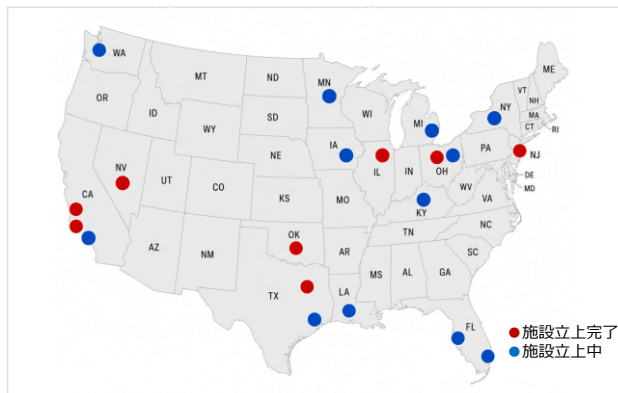
- ・ スポンサー・展示・ポスター説明等を通じ、患者団体・KOL²などとの接点を拡大

2026/5

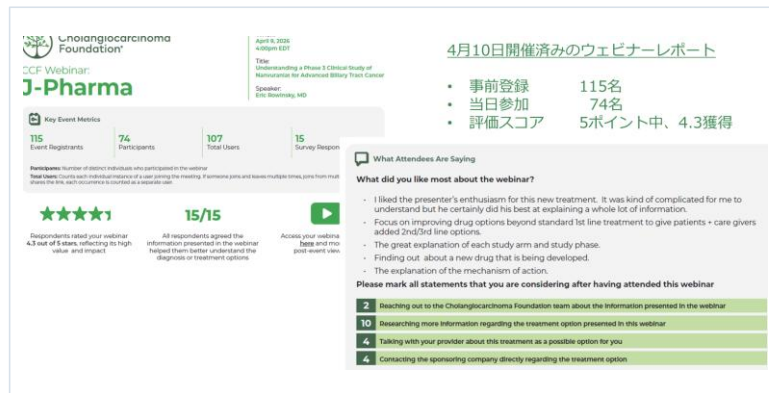
米国8施設目の立ち上げ完了

2026/5

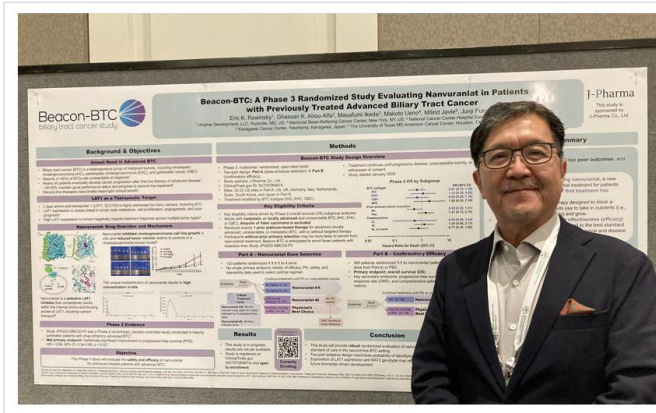
最初の患者への投与開始



米国治験施設立ち上げ：8施設立ち上げ完了



CCF Webinarレポート：評価 4.3/5



CCF Annual Conference参加：患者団体・KOLなどとの接点拡大



注：1. CCF: Cholangiocarcinoma Foundation（米国の胆道がんの患者団体）2. KOL: Key Opinion Leader（特定の疾患領域や専門分野において、国内外で高い専門性と影響力を有し、医療関係者からオピニオンリーダーとして認知されている専門医等）

ナンブランラト：グローバルフェーズ3 今年度の見通し

治験を確実に進捗させると同時に、透明性をもった対外的な発表を継続する

1

米国施設立ち上げ完了

2

Trials (BMC / Springer Nature が出版する査読付き雑誌) での、臨床試験プロトコルの発表

3

Journal of Gastrointestinal Cancer (Springer Nature が出版する査読付き雑誌) での、国内フェーズ2試験の全生存期間 (OS) サブグループ解析の発表

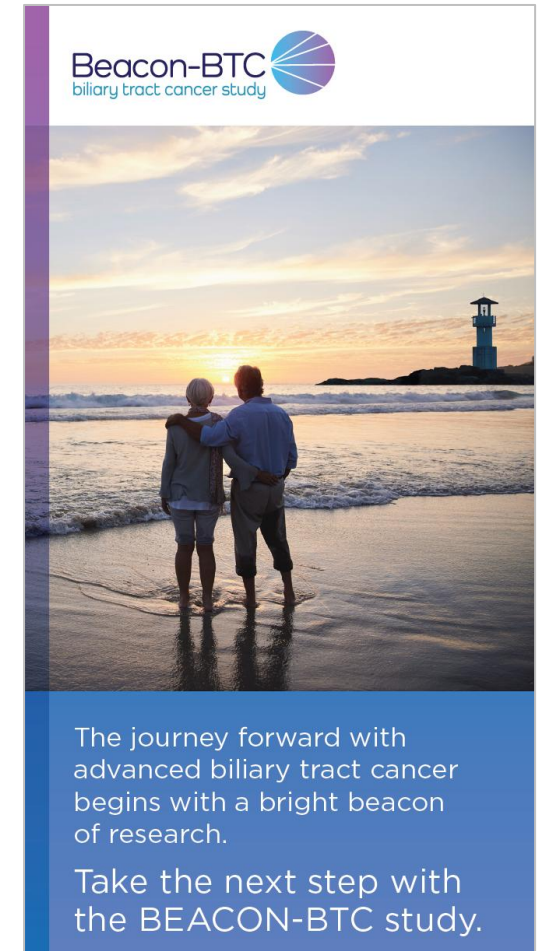
4

データモニタリング委員会による新規レジメンの安全性レビュー完了

5

2027年1月のASCO GI : Study-in-Progress セッションでの進捗発表

※ 様々な要因により、実際の結果は、これらの記述内容と大きく異なる可能性があります。



Beacon-BTC
biliary tract cancer study

The journey forward with advanced biliary tract cancer begins with a bright beacon of research.

Take the next step with the BEACON-BTC study.

胆道がん1次療法を対象とする免疫チェックポイント阻害剤（ICI）との併用療法 医師主導試験の進捗及び見通し

化合物	対象疾患		開発ステージ				
			基礎研究	非臨床試験	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
First-in-Class ナンブランラト (JPH203)	胆道がん 2次療法	単剤療法	[Progress bar]				グローバル
	胆道がん 1次療法	ICI ¹ 併用療法	[Progress bar]			JP	
	KRAS変異大腸がん		[Progress bar]				US
	希少疾患		[Progress bar]				
中枢神経系（脳） 移行型 JPH034	再発を伴わない 2次性進行型多発性硬化症		[Progress bar]				US
	グリオーマ		[Progress bar]				US
Best-in-Class (JPT-0008)	がん全般・自己免疫疾患・ 希少疾患		[Progress bar]			JP	

注：開発ステージにかかる記載は今後の開発予定を記載したイメージ図であり、実際は異なる可能性がある

免疫チェックポイント阻害剤（ICI）との併用療法への展開

免疫のブレーキ解除と免疫活性化の相乗効果による抗腫瘍効果の増強

免疫チェックポイント阻害剤（ICI）の働き方

1. がんは免疫細胞に「攻撃するな」と、免疫回避ブレーキをかける
2. ICIはそのブレーキを解除する働き
3. その結果、免疫ががん細胞を攻撃できるようになる

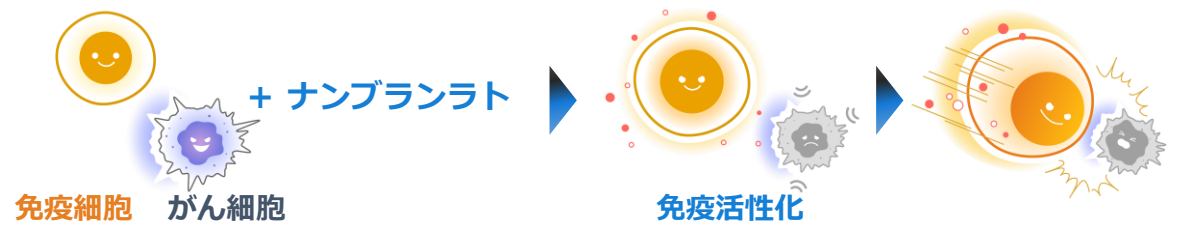
がん細胞による、免疫のブレーキ解除



ナンブランラトの免疫学的意義

1. がんはLAT1を介して周辺のアミノ酸を奪い、免疫細胞を弱らせる
2. LAT1阻害剤によりがん細胞のアミノ酸を枯渇させると同時に、周辺のアミノ酸濃度を戻し、免疫細胞を活性化
3. その結果、免疫細胞によるがん細胞への攻撃力を高める

免疫細胞のエネルギー回復による免疫活性化



併用

「免疫のブレーキ解除」 × 「免疫活性化」 = 抗腫瘍効果増強
+ ICI + ナンブランラト

ナンブランラト：ICI併用医師主導試験 TOPICS

2026年5月、ICI併用を評価する医師主導試験開始

TOPICS

2026/4

PMDA 治験届審査完了

がん研究会有明病院主導の医師主導治験

2026/4

国内の臨床研究等提出・公開システムjRCTに登録

<https://jrct.mhlw.go.jp/latest-detail/jRCT2031260086>

医師主導臨床試験の内容・目的

- 胆道がん1次治療における、抗PD-L1抗体単剤維持療法にナンブランラトを追加
- 維持療法中の、ICIとナンブランラトの相乗効果による効果向上を狙う



注：1：抗PD-L1抗体（デュルバルマブ）＋ゲムシタピン＋シスプラチン

出典：2：「jRCT（臨床研究等提出・公開システム）」（厚生労働省）（<https://jrct.mhlw.go.jp/latest-detail/jRCT2031260086>）掲載情報をもとに当社作成（閲覧日：2026年5月12日）を基に当社作成



がん研究会有明病院ホームページ



研究の種別	医師主導治験
治験の区分	主たる治験と拡大治験のいずれにも該当しない
初回公表日	令和8年4月24日
最終公表日	令和8年4月28日
研究名称	切除不能・再発胆道癌に対するゲムシタピン＋シスプラチン＋デュルバルマブ併用療法の維持療法にナンブランラトを併用する第I相試験
統括管理者の氏名	尾坂 将人
統括管理者の所属機関	がん研究会有明病院
試験のフェーズ	1
対象疾患名	切除不能・再発胆道癌
進捗状況	募集中
医薬品等の一般名称	ナンブランラト

ジェイファーマホームページ

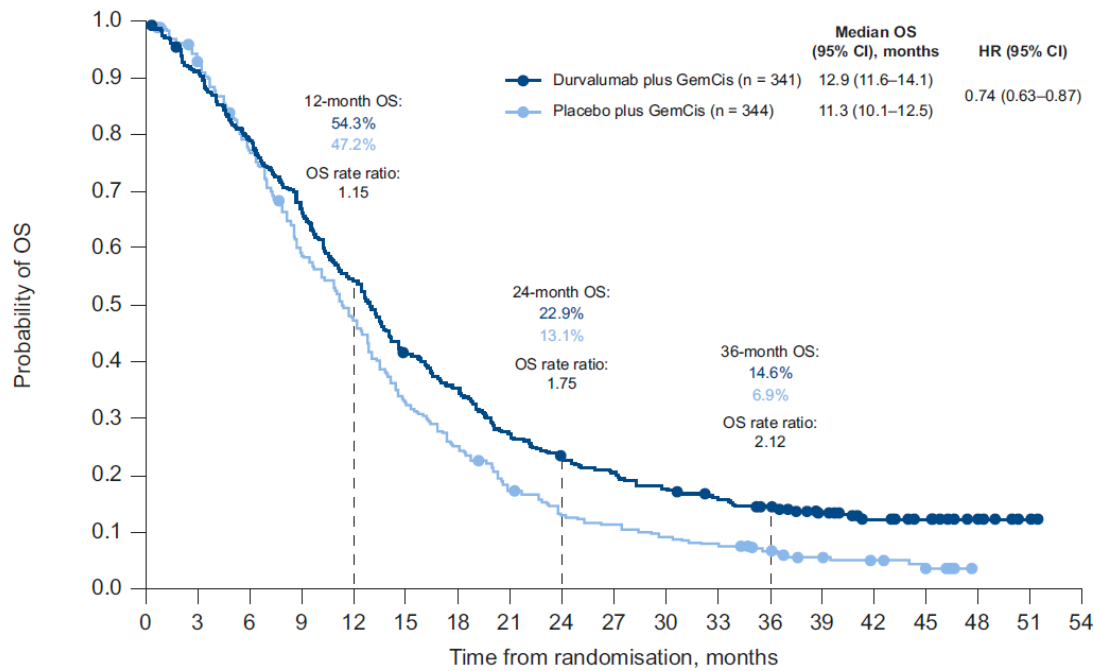
jRCT：臨床研究・治験計画情報の詳細情報²

ICIの効果を増強し、長期の生存率のさらなる向上を図る

現在の標準療法の効果を実証したTOPAZ-1¹試験の3年追跡結果²

- 当治療法において、25週目以降はICI単剤の維持療法に切り替わる
- 24か月生存するのは25%以下であり、いまだアンメットニーズが高い

3剤併用 → ICI（デュルバルマブ）単剤による維持療法

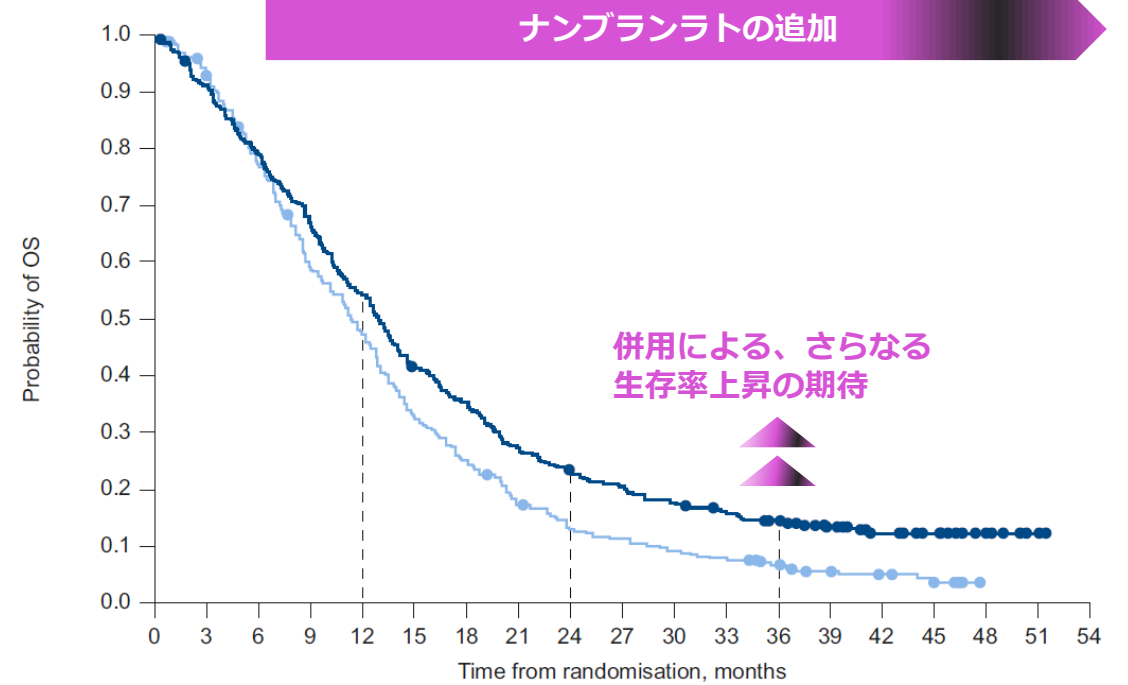


注：1. 胆道がんに対するデュルバルマブ+ゲムシタピン/シスプラチン療法（3剤併用は最初の6カ月のみ。その後は、デュルバルマブ単剤の維持療法に移行。）
 出所：2. J Hepatol., 2025, 83, 1092-1101. 3. Front Immunol., 2023, 14, 1251643.

ナンブランラトによる効果増強戦略

- 25週目以降にナンブランラトを追加することで相乗効果を期待
 - 前臨床モデルにおいて、ナンブランラトとICIの併用による相乗的な抗腫瘍効果を確認³

3剤併用 → ICI（デュルバルマブ）単剤による維持療法



ナンブランラト：ICI併用医師主導試験 今年度の見通し

1 患者登録開始

2 データモニタリング委員会による、新規レジメン及びICI併用療法の安全性レビューの完了

3 ICI併用療法の予備的な効果の評価

※ 様々な要因により、実際の結果は、これらの記述内容と大きく異なる可能性があります。

JPH034の多発性硬化症を対象とする開発の進捗及び見通し

化合物	対象疾患		開発ステージ				
			基礎研究	非臨床試験	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
First-in-Class ナンブランラト (JPH203)	胆道がん 2次療法	単剤療法	→ グローバル				
	胆道がん 1次療法	ICI併用療法	→ JP				
	KRAS変異大腸がん		→ US				
	希少疾患		→				
中枢神経系（脳） 移行型 JPH034	3 再発を伴わない 2次性進行型多発性硬化症		→ US				
	グリオーマ		→ US				
Best-in-Class (JPT-0008)	がん全般・自己免疫疾患・ 希少疾患		→ JP				

注：開発ステージにかかる記載は今後の開発予定を記載したイメージ図であり、実際は異なる可能性がある

多発性硬化症の進行とくすぶり炎症

2次性進行型において、くすぶり炎症に直接アプローチできる治療法が求められる

MSの臨床経過¹と、くすぶり炎症

臨床前期
(自覚症状なし)

再発寛解型
多発性硬化症
RRMS

末梢の免疫細胞が脳内に浸潤し、脱髄が引き起こされる再発 (relapse) と寛解 (remission) を繰り返す

既存薬：疾患修飾薬 (Disease modifying drugs; DMDs)

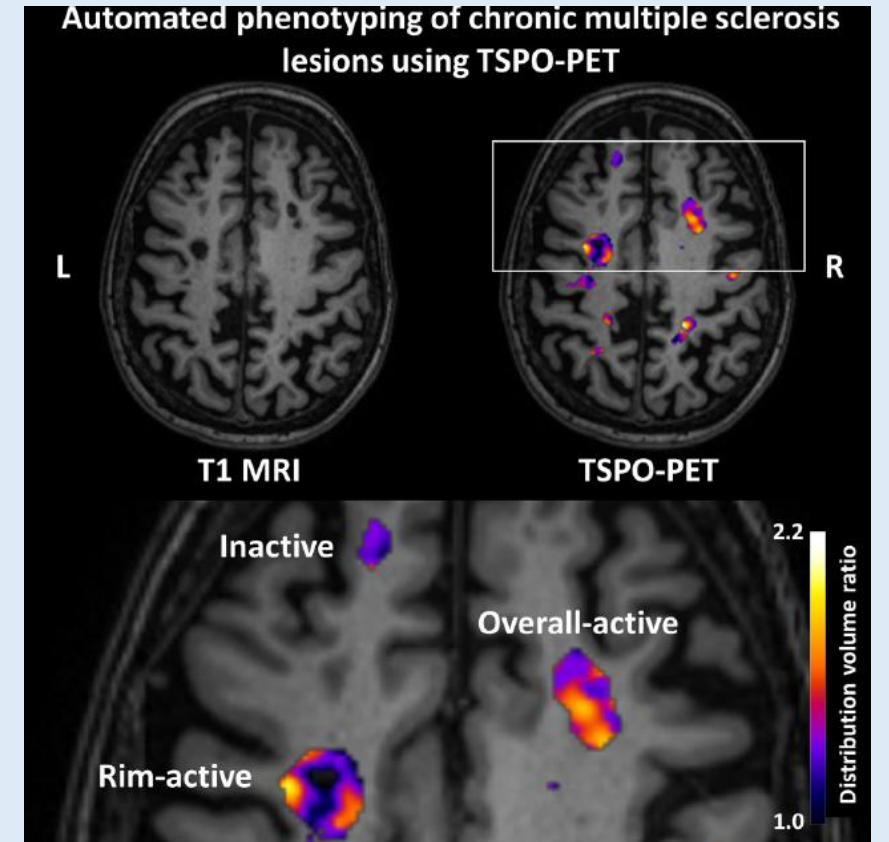
10-15年

2次性進行型
多発性硬化症
SPMS

神経変性 (軸索損傷・脳萎縮) が主体
脳内で「くすぶり炎症」と呼ばれる炎症が持続

既存薬：DMDsの効果は限定的
「くすぶり炎症」に直接アプローチできる治療法が求められる

TSPO-PET で可視化したSPMS脳内の「くすぶり炎症」²



出典：1. Cleve Clin J Med., 2001, 68, 157-70. 2. Marjo Nylund, Brain Communications, Volume 4, 2022,

JPH034 : フェーズ1 TOPICS

海外研究開発パートナーと構築したエビデンスとAMED/NMSS支援を基盤に、JPH034は米国フェーズ1へ進展

TOPICS

2026/2

グローバル開発を意図した FDA IND（治験届） 審査完了

- ・ 中枢領域で欧米基準のフェーズ1として、被験者72名（女性も含む）を対象
- ・ フェーズ2試験の概要もFDA相談済

2026/3

最初の被験者への投与を実施

2026/3

AMED「創薬ベンチャーエコシステム強化事業」 支援企業初の新規上場

2026/4

ClinicalTrials.gov に登録

<https://clinicaltrials.gov/study/NCT07534657>

J-Pharma

AMEDウェブサイト当社に関する記事が掲載されました

2026年3月27日
ジェイファーマ株式会社

AMEDウェブサイト当社に関する記事が掲載されました

創薬ベンチャーエコシステム強化事業で支援した創薬ベンチャー初の新規上場—東京証券取引所グロース市場でのIPO達成—

ジェイファーマ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：吉武益広、証券コード：520A、以下「当社」）は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）のウェブサイトにおいて、当社に関する記事が掲載されたことをお知らせいたします。

ジェイファーマホームページ

研究基盤・支援

- NINDS提唱の研究仮説を起点に研究を開始
- 米国Georgetown大学保有の用途特許の独占的通常実施権
- 同大学との共同研究で構築した非臨床エビデンス
- フィンランドTurku大学との委託臨床研究でヒトMS病巣でのLAT1の関与を実証
- AMED/National MS Society (NMSS) からの補助金

NINDS (NIHの構成組織の一つ)
米国国立神経疾患・脳卒中研究所

GEORGETOWN
UNIVERSITY

 Turku PET
CENTRE

日本医療研究開発機構 (AMED)

National MS Society

JPH034 : 開発・事業化の今年度の見通し

1

過去7年間の、NINDS、Georgetown大学、Turku大学との共同研究を通じ構築した臨床・非臨床エビデンスの、Nature系誌あるいは Science Translational Medicineでの発表

2

フェーズ1の完了

3

事業化スキームの発表
(「事業化について」のセクションで詳細説明)

※ 様々な要因により、実際の結果は、これらの記述内容と大きく異なる可能性があります。

Agenda

- 事業の進捗及び見通し
- **2026年3月期 決算発表の概略**
- 2027年3月期 業績予想について
- 事業化について
- 質疑応答

2026年3月期の費用に関する特殊な事情

AMED補助金と、JPH034のグローバル進捗

AMED補助金を活用した、JPH034多発性硬化症開発プロジェクト **△約14億円**

うち、AMED補助金による補填（営業外収益） **+約10億円**



AMED補助金の活用により、JPH034のグローバル進捗に成功

業務執行取締役への長期間にわたるインセンティブ

業務執行取締役3名へのSO割当 **△約2.6億円**

関連SOの放棄（特別利益） **+約1.8億円**



単年に費用計上したが、長期間にわたるインセンティブとして機能

IPO関連費用

IPO関連費用（弁護士費用、証券会社、印刷会社、取引所手数料等） **△約0.5億円**

P/L 研究開発費30.1億円：補助金を活用しながらグローバル開発を推進

項目	2025/3期	2026/3期	ポイント
事業収益	—	—	•研究開発ステージのため未計上
研究開発費	12.1億円	30.1億円	•2つの開発品のグローバルステージへの進展のための開発費用 •とくに、AMED補助事業によるJPH034の開発費約14億円
販管費	3.7億円	6.9億円	•IPO関連費用 •業務執行取締役への長期間にわたるインセンティブの単年費用計上
営業損失	▲15.9億円	▲37.1億円	
補助金収入	0.9億円	10.2億円	•AMED補助金
当期純損失	▲14.9億円	▲24.6億円	•補助金に加え、新株予約権戻入益約1.8億円等で損失を一部吸収

Agenda

- 事業の進捗及び見通し
- 2026年3月期 決算発表の概略
- **2027年3月期 業績予想について**
- 事業化について
- 質疑応答

2027年3月期予想：研究開発を継続し、事業価値拡大を目指す

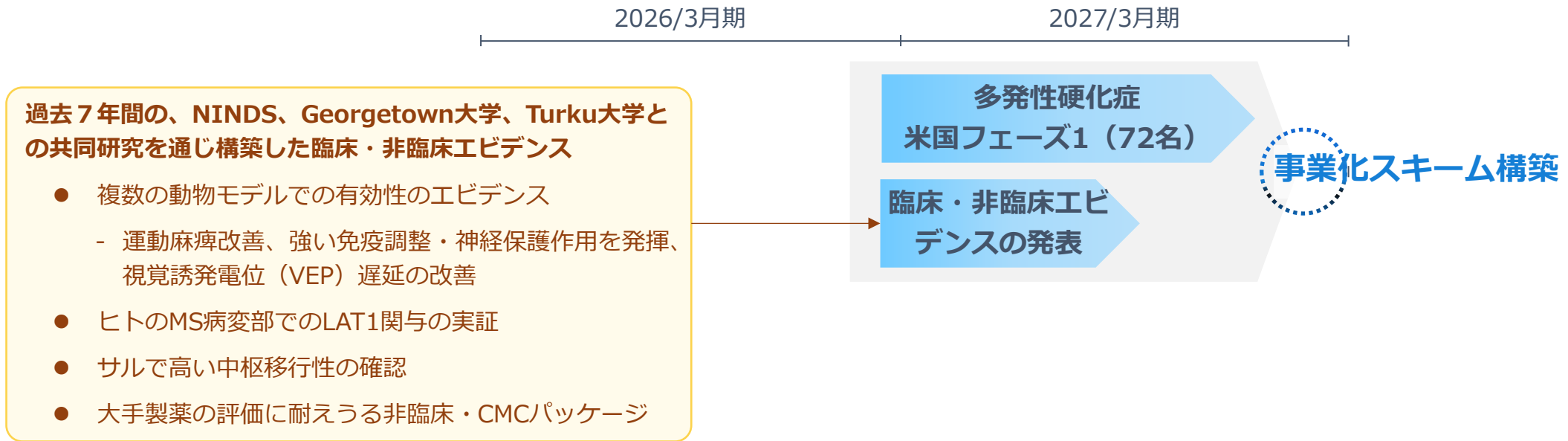
項目	2026/3期 実績	2027/3期 予想	ポイント
事業収益	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 2027年3月期は事業収益の計上を見込まず (2027年3月期にJPH034の事業化スキームの構築を計画するが、内容未確定のため業績予想には未反映)
研究開発費	30.1億円	25.3億円	<ul style="list-style-type: none"> 主に、3つの臨床試験の推進、特許強化・延長、新規LAT1阻害剤創薬のための費用
販管費	6.9億円	3.0億円	<ul style="list-style-type: none"> 上場会社として必要となる管理費用、事業活動に必要な費用を計上 (株式報酬費用、上場準備関連費用減少)
営業損失	▲37.1億円	▲28.4億円	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発投資を継続しつつ、費用規模は前期比で減少見込み
当期純損失	▲24.6億円	▲28.4億円	<ul style="list-style-type: none"> 営業損失と同水準を見込む

現金及び預金44.5億円、自己資本比率85.4%の安定的な財務基盤のもと、次の主要開発マイルストーン・事業化計画達成までに必要な資金は確保済み

Agenda

- 事業の進捗及び見通し
- 2026年3月期 決算発表の概略
- 2027年3月期 業績予想について
- **事業化について**
- 質疑応答

JPH034は、欧米でのフェーズ2 ready になる段階（蓄積してきたエビデンスとフェーズ1のデータ）で今年度の事業化スキームの構築を目指す



欧州バイオテック企業との協議開始

NDA下で開発・事業計画、アライアンススキームについて協議中

複数の製薬・バイオテック企業との協議

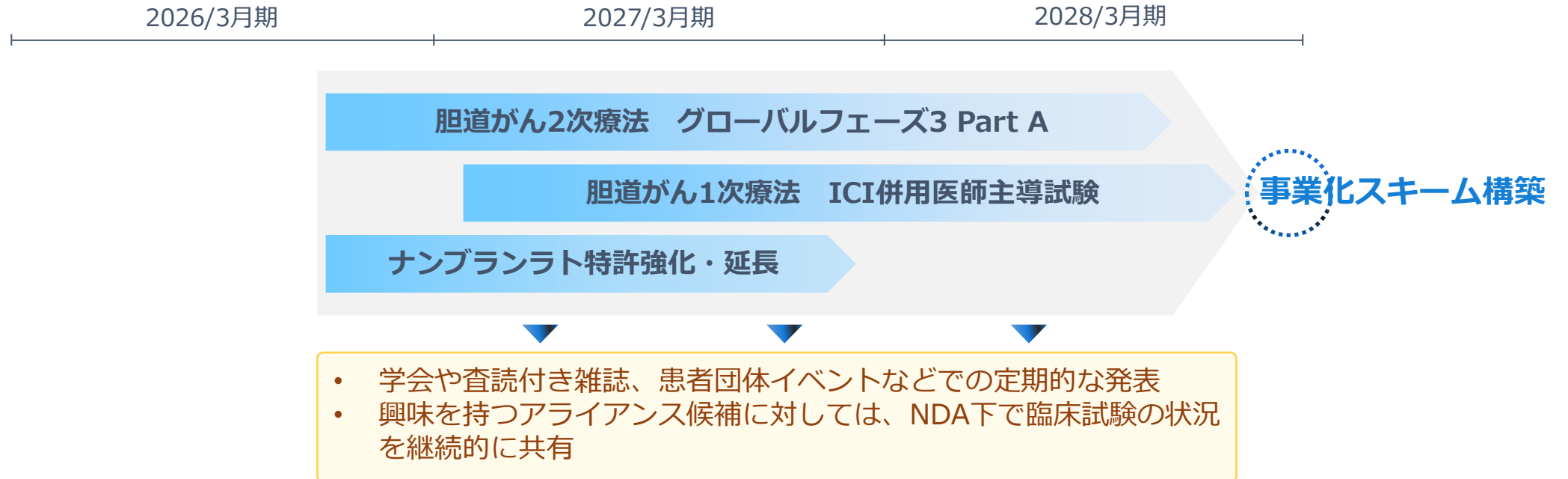
関心を示す企業と継続的に協議中

その他の事業化スキームの検討

米国でのCNSの開発に特化した子会社を設立し、資金調達を行う案についても、投資家等と協議

※開発や契約締結の時期等については、現時点において当社が想定する時期を目安として示したものであり、実際にはこれと異なる可能性がある
※パートナー候補等との交渉により、ライセンス契約ではなく共同開発や、出資など、開発を進めるための別の契約体系になる可能性も考えられる
※ライセンス契約の成否や規模は臨床試験結果に依存し、試験結果によっては望ましい契約内容に至らない可能性がある

ナンブランラトは、3つのプロジェクトで価値を高め、2028年3月期の事業化スキームの構築を目指す



一部企業とNDA下で協議開始

一部の海外企業とは、NDA下で臨床試験の状況を共有し、提携スキームの協議を開始

アライアンス候補先の選択肢拡張

フェーズ3開始以降、頻繁にアライアンスの問い合わせあり：データを共有しながら信頼関係を構築

その他の事業化スキームの検討

補助金、ロイヤルティ型ファイナンス等の活用も検討

※開発や契約締結の時期等については、現時点において当社が想定する時期を目安として示したものであり、実際にはこれと異なる可能性がある
※パートナー候補等との交渉により、ライセンス契約ではなく共同開発や、出資など、開発を進めるための別の契約体系になる可能性も考えられる
※ライセンス契約の成否や規模は臨床試験結果に依存し、試験結果によっては望ましい契約内容に至らない可能性がある

Agenda

- 事業の進捗及び見通し
- 2026年3月期 決算発表の概略
- 2027年3月期 業績予想について
- 事業化について
- **質疑応答**